

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

群馬県桐生市
が応援するふるさと名物

**桐生の繊維関連製品
応援宣言**

平成28年1月18日



桐生市の プロフィール



桐生市マスコットキャラクター
「キノピー」

◆伝統と創造、粋なまち桐生

群馬県桐生市は、関東平野の北部、群馬県の東部に位置し栃木県との県境にある。三方を山々に囲まれ、東には桐生川、西には渡良瀬川が流れ、それらに挟まれた盆地で古くから織物の産地として発展を遂げてきたまちである。

桐生での織物の起こりは、今から1300年ほど前の奈良時代。上野国(現在の群馬県)が初めて絹を織って朝廷に差し出したと言われている。

1600年の関ヶ原の合戦では、徳川家康が桐生の白絹(しらぎぬ)の旗を用いたことで、桐生織物はその名を全国的に高め、江戸時代には「西の西陣、東の桐生」とうたわれ、織物の一大産地となった。

1879年には、日本の輸出織物を代表する羽二重(はぶたえ)が桐生において試織され、1881年に日本最初の対米輸出を成し遂げた。

現在でも、企画から製品化までのデザイン、撚糸、染色、織り、編み、刺繍、縫製等の加工技術に優れ、繊維に関する全ての工程の技術が集積した、他に類を見ない複合繊維産地である。



風光明媚な環境



のこぎり屋根工場



絹撚記念館

1

主な地域資源

◆織物・編物・シルク製品

本市の主な地域資源としては、桐生織、東毛地域の織物製品、編物製品(メリヤス・ニット・レース)、群馬のシルク製品が挙げられる。

本市における染色・織り・編み・刺繍等に携わる繊維関連の事業所数は、市内製造業の約5割を占め、世界でもまれにみる繊維産業の一大集積地となっている。技術開発については、国内唯一とされている繊維専門の公設試験機関(群馬県繊維工業試験場)を市内に有し、多種多様な素材の研究を行っている。こうした生産体制と技術開発体制のもと、あらゆるニーズに対応できることが、本市における織物製品、編物製品の最大の特長となっている。

また、群馬県は、古くから養蚕が盛んで、現在も全国最大の生糸の産地であり、シルク(絹)に関連した様々な製品が展開されている。



「桐生織」製品



各種繊維製品

◆桐生の繊維関連製品応援宣言

染色、織り、編み、刺繍等、繊維関連の各技術を複合的に組み合わせた高付加価値製品、すなわち、「桐生織」の伝統的な技術を継承している着尺、帯等の和装関連製品や、洋装服地、服飾工芸、ホームファッション、産業資材等の製品が数多く生み出されている。

繊維産地の発展に伴い、古くから利用されている天然繊維であるシルクについても、加工技術や活用方法の研究が進められ、関連製品が幅広い用途で生み出されている。



シルクを活用した化粧品

2

ふるさと名物

1

技術支援

◆産学官連携による開発支援

市内に所在する群馬大学理工学部、北関東産官学研究会等を通じ、産学官連携による新技術・新商品の開発支援を実施している。また、群馬県との連携により、繊維工業試験場や群馬産業技術センター等、専門的な技術や知見を有する公設試験機関との共同研究や開発の支援を行っている。



2

販路開拓

◆国内外の取引先開拓

桐生産地の魅力を域外に発信するため、桐生地域地場産業振興センターや桐生織物協同組合等と連携し、「桐生テキスタイルプロモーションショー」や「桐生テキスタイルコレクション」等の展示会を、産地一体となって都内で開催している。

また、桐生産地の技術力を海外に発信するため、「台北テキスタイルフェア」や「テックスワールドパリ」に参加するとともに、JETROと連携し、海外ブランドのバイヤーに対して直接アピールする「輸出商談会」に参加している。



3

技術継承

◆繊維大学で人材育成

桐生産地の活性化に向けて、繊維産業の次代を担う人材を育成するため、繊維業界の動向や、素材、染色などの知識、先進分野の状況、マーケティング等幅広い知識を習得できるように、桐生地域地場産業振興センターにおいて「桐生繊維大学」を開講している。

